

造園植物資源学特論演習 (2単位)

担当者氏名 高橋新平・濱野周泰・鈴木貢次郎・水庭千鶴子

◆学習・教育目標(到達目標を記載)

造園植物資源学特論の授業内容を受けて、本演習は主として造園植物学、造園植栽学、樹木学、芝草学、植生学、植物生態学、などにおける具体的な理論と内容について講義と連動しながら理解するために、様々な理論式や計算公式を活用しながら、あるいは既に公開されている多くのデータを根拠として、その重要性や意義について理解し再確認することを意図している。

具体的には、造園植栽や緑化の意義、樹木や芝草の生育や特徴を理解するための成長モデル(解析)、園芸植物の生育性や利用、植生保全や植生管理あるいは植生生態に関する調査研究を事例として、掲載されているデータの意義、データの読解力、データの作表作図、等についての具体的な手法とその理解を目的とした授業(演習)である。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

植物資源	植物成長解析	植物生理	環境適応
植物個体生態	植生再生		

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	授業のねらい	具体的な授業内容のねらいを解説	植物資源学、造園植物学の領域を把握し、調査研究への展開視点とアプローチを学ぶ上で必要となる既往研究の収集や関連する空間の状況などのデータ収集に心がける。
2	植物や植栽地の環境効果	植物の環境効果(役割や機能)実証研究にみる効果	
3	造園植栽と緑化の役割①	植栽・緑化の物理的効果	
4	造園植栽と緑化の役割②	植栽・緑化の精神的効果	
5	樹木学の領域と重要性①	樹木の生理学・生態学・形態学、樹木管理	
6	樹木学の領域と重要性②	森づくりの実際とその調査研究事例	
7	植物学の領域と造園①	造園学における植物の分類学、生産栽培学の領域	
8	植物学の領域と造園②	調査研究の事例	
9	芝草・地被学の重要性①	芝草や地被植物の造成・管理・運営の実際	
10	芝草・地被学の重要性②	調査研究事例	
11	花・園芸学の重要性①	園芸植物や草花の特性、栽培環境、植栽基盤整備	
12	花・園芸学の重要性②	調査研究事例	
13	応用植物生態学の重要性①	植生の再生復元・保全・管理、生物多様性	
14	応用植物生態学の重要性②	調査研究事例	
15	総括	本講義の総括	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

必要な資料は配布する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

演習中に適宜紹介する

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

講義時における課題レポートによる評価(100%)。

◆オフィスアワー

原則は、演習中または後とする。また各教員については造園科学科の担当科目に記載されているので参照

◆その他受講上の注意事項

演習で学外に調査などに行く場合があることもあるので日程などを十分確認すること